

ジャケット栈橋を提案し復旧を6カ月前倒し

石巻漁港栈橋復旧でジャケット製作を受注

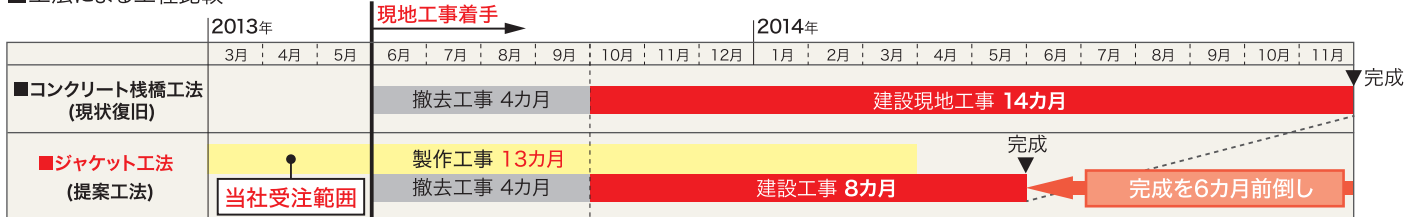
当社は、石巻漁港の栈橋復旧でジャケット製作を受注しました。これは、当社が既設杭を活用したジャケット工法で現地工事の大幅短縮を宮城県に提案し、採用されたものです。

漁港の栈橋は、震災による地盤沈下で、満潮時には水没する状態になっており、早期復旧が望まれていました。

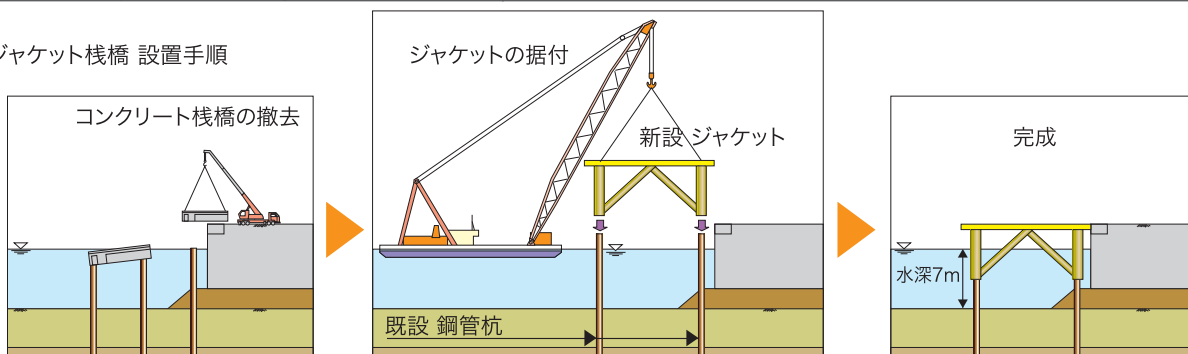
今回の工法は、現地の着工時期に制約がある中、あらかじめ工場で製作が可能な鋼製ジャケットの利点を最大限に活かし、復旧を約6カ月前倒しするものです。

今後も、当社は「*SPEED Engineering*」をご提案していきます。

■工法による工程比較



■堤案ジャケット栈橋 設置手順



- 発注者: 宮城県
- 工事名称: 石巻漁港-7.0m栈橋外災害復旧(その2)工事
- 工事概要: ジャケット12基の製作(470m)
- 工期: 2012年12月~2014年3月



当社の技術提案により復旧工事の課題を解決

お客様は、一刻も早い復旧を望まれていました。しかしながら、復旧工事は種々の現地作業が輻輳するために現地の工程短縮が課題となっていました。

沿岸鋼構造物のトップメーカーである当社は、損傷を免れた既設鋼管杭を利用し、耐震性と工程短縮に優れるジャケット式栈橋工法を提案しました。顧客のニーズをいち早くつかみ、適切な提案を行ったことで採用に至ったと感じています。震災から間もなく2年。当社の技術提案を通じて一日も早い東北沿岸域の復旧・復興に貢献していきたいと考えています。

沿岸鉄構事業部 営業部 佐藤 健全たけとも